

圭陵会FAXニュース

発行所：岩手医科大学圭陵会
 発行人：石川 育成 編集人：前沢 千早
 連絡先：TEL 019-624-8386 FAX 019-624-8380
 E-mail: info@keiryokai.gr.jp

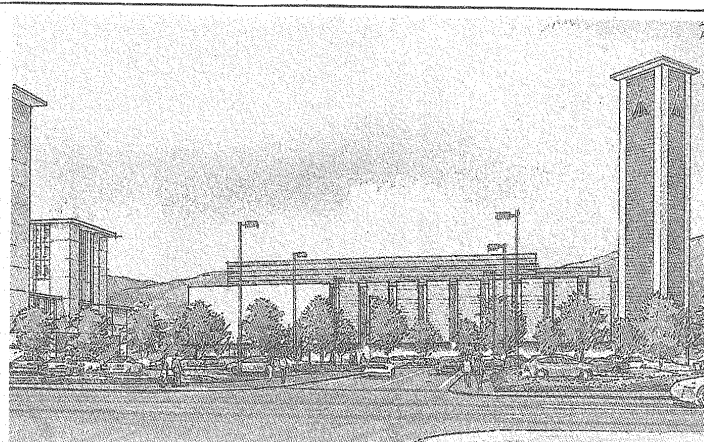
第37号内容
 ・エネセンター建設着手
 岩手医大 矢巾キャンパス
 停電時電力賄う

岩手日報 H26.11.2

エネセンター建設着手

岩手医大 矢巾キャンパス 停電時電力賄う

岩手医大(小川彰理事長)は1日、矢巾町藤沢の同大矢巾キャンパス敷地内に整備するエネルギーセンター棟の起式を行った。停電時、病院内の全ての施設の使用電力を一定期間、賄うことができる全国初の施設。発電を担う主要部分は2015年度内に完成する見込みで、19年の新付属病院開業に合わせて本格的に電力供給を開始する。災害時の課題となる医療態勢の安定確保への貢献が期待される。



2015年度内に完成を予定する岩手医大矢巾キャンパスのエネルギーセンターの完成予想図。停電時、同病院の全電力を賄うことができる

同大の新付属病院に隣接し、地上4階建て、延べ床面積は約6千平方メートル。建設資材の値上がりなどを受け、施設建設費は当初の見積もりを約1割上回る計70億円の予定。

経済産業省の補助を受け、蓄電池を備えた太陽光発電、地中熱利用ヒートポンプなど再生可能エネルギー利用設備を導入。ガスと重油で発電し、得た熱と電気を活用するコージェネレーションシステム

ムを中心に、自立供給のための分散型エネルギーシステムの構築を目指す。燃料不足時も充電して使える電気自動車も2台配置する。

最大出力は約6千ワット。停電などの非常時、付属病院内のほぼ全ての施設の使用電力を3〜7日間賄える。電力は16年度から同センター内で使用。19年度には新付属病院へ本格供給を始める方針。通常時は排熱を冷暖房用の熱供給に使う。

エネルギーセンター整備は東日本大震災後、同大が急ぎ、同大付属病院の矢巾町への移転計画に盛り込んだ。震災時の停電で、災害拠点病院として機能を十分果たせなかつ

た教訓を踏まえた。同大の小川理事長は「安心、安全、快適な医療の実現のため、地域医療の安定、充実に取り組む。日本一、世界一の病院を目指す」と決意を語った。

圭陵会FAXニュース

圭陵会ホームページよりPDF形式でダウンロード頂けます。
 ■圭陵会ホームページアドレス <http://www.keiryokai.gr.jp>